

日本環境効率フォーラム平成18年度活動報告(案)

1. 活動内容

(1) 環境効率推進活動(環境効率手法の活用, 改善, 発展等の検討)

総会

- ・平成18年7月27日, 日本科学未来館 みらいCAN ホールにおいて開催。
- ・平成18年度から, 会費制度移行に伴う規約改訂, 監事選任を実施し, 満場一致で承認された。
- ・平成17年度活動報告(案), 会長・副会長選任(案), 平成18年度活動計画案及び収支計画(案)を審議し承認された。

運営委員会

フォーラム活動の基本的枠組みおよび方向性について検討した。

第1回 平成18年5月25日 (社)産業環境管理協会7階大会議室にて開催。

- ・新規申込会員の承認を行った。
- ・正・副会長の改選(案), 規約改正(案), 監事の選任(案), 平成18年度計画(案)について審議, これを承認し, 総会に諮ることとした。

第2回 平成18年9月8日 (社)産業環境管理協会7階大会議室にて開催。

- ・新規会員承認, 平成18年度活動について審議した。
- ・戦略的環境経営小委員会の設置について審議, 環境経営全体に目を向けるという趣旨はフォーラム設立趣旨に相容れないのではないかと指摘がある一方で, フォーラム活動を多様化させ, 環境効率の適用に閉塞感を持たせるべきでないとのことから設置が承認された。

第3回 平成19年3月29日 (社)産業環境管理協会7階大会議室にて開催。

- ・新規会員承認, 新規ワーキンググループ2件の承認を行った。
- ・平成18年度活動報告(案), 同収支決算書(案), 平成19年度活動計画(案), 同収支予算(案)を審議, これを承認し, 平成19年度総会に諮ることとした。

戦略的環境経営のための環境効率指標のあり方についての研究に関する小委員会
及び環境経営評価指標研究WG(平成19年度継続) WGは小委員会の下部組織

- ・環境経営促進のための市場や社会に対する働きかけおよび環境経営評価指標の研究等の具体策について検討している。経営指標の整理(マテリアルフロー, 環境会計等), MFCA 指標化検討を行い, マテリアルフローコスト会計等環境経営に役立つガイダンスやガイドライン作成を検討している。

小委員会(戦略的環境経営のための環境効率指標のあり方についての研究に関する小委員会)

第1回 平成18年10月30日 (社)産業環境管理協会7階会議室にて開催。

ワーキンググループ(環境経営評価指標研究WG)

第1回 平成18年12月25日 (社)産業環境管理協会7階会議室にて開催。

第2回 平成19年1月25日 (社)産業環境管理協会7階会議室にて開催。

(2) 普及啓発活動

環境効率アワード2006

- ・環境効率アワード2006 選考基準検討小委員会
平成18年7月19日 (社)産業環境管理協会7階会議室にて開催。新たに「製品パフォーマンス部門」「マテリアルフローコスト会計部門」を設置することを決定した。
- ・環境効率アワード2006 選考委員会
平成18年11月9日 (社)産業環境管理協会7階大会議室にて開催。審議の上、各賞を選考した。各賞は次の通り。
 - (1) 経済産業省産業技術環境局長賞
松下電器産業株式会社(松下グループ) 「新たなくらし価値創造 ファクターX」
 - (2) 日本環境効率フォーラム会長賞
《製品活動部門》
富士通株式会社 「富士通グループにおける環境効率ファクターによる経営革新」
《企業活動部門》
株式会社 東芝 「環境効率指標をベースにした環境経営の展開」
《普及促進部門》
滋賀県 「滋賀県における環境効率の普及促進活動」
 - (3) 奨励賞
《普及促進部門》
社団法人日本自動車部品工業会「日本自動車部品工業会の製品環境指標」
 - (4) 特別賞
《製品パフォーマンス部門》
株式会社ビックマン 「ポケットサッシ」
《マテリアルフローコスト会計部門》
キヤノン株式会社 「マテリアルフローコスト会計導入による資源生産性の向上と経済効果」
田辺製薬株式会社財務経理部 「マテリアルフローコスト会計活用による環境経営の推進」

セミナーの開催

- ・平成18年7月27日 環境効率(eco-efficiency)最新動向セミナー
総会終了後、日本科学未来館 みらいCAN ホールにおいて開催。
- ・平成18年12月15日 環境効率アワード2006 記念講演
エコプロダクツ展会期中、東京ビックサイト会議棟6階605+606号室において開催。

(3) 会員相互の交流

- ICTの環境効率に関する小セミナーを開催し、環境効率に関する意見交換の場を提供した。
- ・第1回 平成18年8月30日(社)産業環境管理協会7階大会議室にて開催。
「NTTにおけるICTサービスの環境影響評価の取組み」
「NECグループにおけるITソリューションの環境負荷評価」
 - ・第2回 平成18年9月6日(社)産業環境管理協会7階大会議室にて開催。
「富士ゼロックスにおけるソフトウェアの環境配慮商品化への取組み」
「日立グループのIT環境影響評価手法と評価事例」
 - ・第3回 平成19年2月21日(社)産業環境管理協会7階大会議室にて開催。
「富士通における環境貢献ソリューション認定制度の取組み
～ICTの分類、環境効率指標のための価値の抽出検討～」
「松下グループのファクターX」

2 . 活動日誌

【総会】

2006.07.27 フォーラム総会

【環境効率アワード 2006】

2006.12.15 表彰式・記念講演（エコプロダクツ展同時開催）

【セミナー】

2006. 07.27 環境効率最新動向セミナー

【小セミナー】

2006.08.30 第 1 回 ICT と環境効率小セミナー

2006.09.06 第 2 回 ICT と環境効率小セミナー

2007.02.21 第 3 回 ICT と環境効率小セミナー

【運営委員会】

2006.05.25 平成 18 年度第 1 回運営委員会

2006.09.08 平成 18 年度第 2 回運営委員会

2007.03.29 平成 18 年度第 3 回運営委員会

【小委員会】

2006.10.30 第 1 回戦略的環境経営のための環境効率指標のあり方についての研究に関する小委員会

【ワーキンググループ】

2006.12.25 第 1 回環境経営評価指標研究WG

2007.01.25 第 2 回環境経営評価指標研究WG

【対外発表等】

2006.06.30 2nd eco-efficiency international conference にて発表

2006.10.24-26 滋賀県びわ湖ビジネスメッセにてパネル展示および環境効率セミナーの後援

【ニュースレター発行】

2007.01.05 第 1 号

2007.03.27 第 2 号

2007.04 (第 3 号予定)

以上

平成18年度 収支決算報告(案)

(単位:千円)

科目	予算(X)	実績(Y)	差引(Y-X)	
収入の部				
1.会費	710	1,045	335	
				フォーラム年会費(法人会員) @ 20 x 49 社 = 980
				フォーラム年会費(個人会員) @ 5 x 13 人 = 65
2.事業費	90	221	131	
				セミナー参加費(非会員) @ 5 x 44 人 = 220
				その他 @ 1 x 1 人 = 1
収入合計(A)	800	1,266	466	
支出の部				
1.セミナー関係費	376	510	134	
				会場費 227
				講師謝金 177
				講師交通費 77
				セミナー関係雑費 29
2.アワード関係費	214	294	80	
				選定委員会謝金 126
				旅費 41
				会議費 18
				アワード式典・受賞企業副賞等 105
				アワード関係雑費 4
3.運営委員会活動費	139	223	84	
				謝金 73
				旅費 144
				会議費 5
4.その他雑費	71	121	50	
				諸経費 111
				振込手数料 11
支出合計(B)	800	1,148	348	
収支差(A-B)	0	118		

監査報告書

平成18年度日本環境効率フォーラム会計書類について監査を行った結果、収支の状況を正しく示しているものと認めます。

平成19年4月18日

監事 キヤノン株式会社
グローバル環境推進本部
環境統括・技術センター製品環境推進室
室長 石塚 明

